

---

06/07 化学工業日報 経産省、低炭素技術のアフリカ普及を推進、UNIDOと連携

経済産業省は、国連工業開発機関（UNIDO）と連携し、アフリカへの日本の低炭素技術の普及を推進する。今年度からUNIDOが行う再生可能エネルギーの実証事業を支援する。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）もUNIDOと包括協力協定を締結、アフリカで最新の再生可能エネルギー技術を展開する。

経産省は今年度予算でUNIDOへの拠出金として5・5億円を計上している。UNIDOはこれを再エネ技術の実証事業に充てる。分散型電源であるマイクロ水力発電、太陽光発電が対象事業の候補。3年かけて導入効果の検証や技術評価を進め、実施国および近隣国での水平展開の可能性を探る。

マイクロ水力発電は、3メートル程度の少ない落差でも発電可能な技術。設備も小さく従来型の小水力発電システムでは設置が困難だった場所にも導入できる。太陽光発電は、蓄電池と組み合わせたシステムを無電化村に導入する。従来のディーゼル発電を代替しエネルギー使用量を削減する。アフリカでは電力インフラが整備されていない地域が多い。自立分散型の再エネによる電力供給のシステムと技術を実証する。

NEDOはUNIDOとの協力締結を契機に、日本の技術移転に乗り出す。バイオマスをはじめとする最新技術の普及を念頭に置く。NEDOはアフリカで2国間オフセット・クレジット制度（JCM）の事業化調査も行なっている。UNIDOの実証事業では、JCMの削減プロジェクトとしての具体化も視野に入れる。

---